

## 東京の祝祭と博覧会

都市における仮設なるものをめぐって

### はじめに、「江戸の祭礼と開帳」補遺

#### ・武家地／社寺地／町人地（町地）の一元化

交通の自由 → 木戸の廃止

→ 城門の撤去 → 筋違橋御門と万世橋、常盤橋御門と常盤橋

- 1) 江戸図
- 2) 城門配置図（平井聖監修『地図と写真で見る幕末明治の江戸城』学研）  
見附、御門
- 3) 筋違橋御門（社団法人霞会館編『鹿鳴館秘蔵写真帖』平凡社）
- 4) 万世橋（石黒敬章編『明治・大正・昭和東京写真大集成』新潮社）
- 5) 「東京神田万世橋賑之図」
- 6) 「東京神田神社祭礼之図」（『祭礼・山車・風流』展図録、四日市市立博物館）
- 7) 常盤橋御門（玉井哲雄編『よみがえる明治の東京』角川書店）
- 8) 架けかえられた常盤橋（玉井哲雄編『よみがえる明治の東京』）
- 9) 常盤橋の現状
- 10) 「東京名所従日本橋北之通瓦斯燈夜之景」

#### ・祭礼における仮装／変身 ←→ 日常生活における服装

異国人、唐人の役割

- 1) 羽川藤永「朝鮮人来朝図」神戸市立博物館蔵（『朝日百科・日本の歴史別冊 歴史を読みなおす 17 行列と見世物』朝日新聞社、1994）
- 2) 「神田明神祭礼図」東京国立博物館蔵（『祭礼・山車・風流』展図録）
- 3) 「神田明神御祭礼御用御雇祭絵巻」国立国会図書館蔵（『川越氷川祭礼の展開』展図録、川越市立博物館）

#### ・両国回向院（国豊山無縁寺）はなぜ開帳のメッカとなったか

明暦大火（1657）と安政大地震（1855）の死者（身元不明者＝無縁仏）を埋葬 → 災害／戦争による大量死と都市の対応（埋葬と慰霊）

盛り場の形成 → 西両国広小路

「承応（1652～54）から慶応まで（およそ210年間）に1565回の開帳が催され、そのうち居開帳は824回、出開帳は741回となる。年平均回数は7.3回、居開帳は3.8回、出開帳は3.4回である」（比留間尚『江戸の開帳』吉川弘文館、1980）

- 1) 『江戸名所図会』より回向院
- 2) 高力猿猴庵『嵯峨靈仏開帳志』名古屋市博物館蔵（『博覧都市江戸東京』展図録、江戸東京博物館）
- 3) 「とんだ靈宝」川添裕コレクション、1777（『大見世物』展図録、たばこと塩の博物館）
- 4) 「とんだ靈宝」の復元（『大見世物』展図録）

### 法隆寺宝物の移転

・ 両国回向院で出開帳（1694、1842）→ 東大寺大仏殿で奈良博覧会（1875、76）→ 300余点を皇室に献納／1万円下賜（1878、以後博物館で管理）→ 国有財産化（1949）→ 東京国立博物館法隆寺宝物館（1964、1999）

・ 開帳 → 博覧会 → 博物館

- 1) 『御宝物図絵』法隆寺出版、1842（『法隆寺献納宝物』展図録、東京国立博物館）
- 2) 「逆沢瀉威鎧雛形」平安時代（12世紀）、宮内庁三の丸尚蔵館蔵（『生まれかわった法隆寺宝物館』東京国立博物館）
- 3) 東京国立博物館法隆寺宝物館の現状
- 4) 東京国立博物館の現状
- 5) 二代広重「東都上野花見」1859、江戸東京博物館蔵（『博覧都市江戸東京』展図録）
- 6) 『江戸名所図会』より寛永寺
- 7) 寛永寺焼跡（社団法人霞会館編『鹿鳴館秘蔵写真帖』）
- 8) 第1回内国勸業博覧会美術館、1877（『目でみる120年』東京国立博物館）
- 9) 第2回内国勸業博覧会美術館の建設（『目でみる120年』）
- 10) 上野博物館、1882（『目でみる120年』）
- 11) 寛永寺本坊の門を転用した博物館正門（石黒敬章編『明治・大正・昭和東京写真大集成』）
- 12) 関東大震災で倒壊した博物館、1923（『目でみる120年』）
- 13) 東京国立博物館本館の現状

### 博覧会

・ 博覧会は「文明開化」の装置 → 啓蒙と殖産興業

・ 「文明」のチャンネル切替（中国から西洋へ）

「博物館は世界中の物産、古物、珍物を集めて人に示し、見聞を博くする為に設けるもの

なり」

「前条の如く各国に博物館を設けて古来世界中の物品を集むと雖ども、諸邦の技芸工作、日に關（ひら）け、諸般の発明随て出、随て新なり。之が為め昔年は希有の珍器と貴重せしものも、方今に至ては陳腐に属し、昨日の利器は今日の長物となること、間々少なからず。故に西洋の大都会には、数年毎に産物の大会を設け、世界中に布告して各々其国の名産、便利の器械、古物奇品を集め、万国の人に示すことあり。之を博覧会と称す。・・・

・・・博覧会は元相教へ相学ぶの趣意にて、互に他の長所を取て己の利となす。之を譬へば智力工夫の交易を行ふが如し」  
(福沢諭吉『西洋事情』慶応2年)

「博覧会の旨趣は、天造人造の別なく、宇内の産物を蒐集して、其名称を正し、其用を弁し、人の知見を広むるに在り・・・」  
(文部省布達、明治5年1月)

#### ・万国博覧会と内国勸業博覧会

- 1) 昇齋一景「元昌平坂聖堂ニ於テ博覧会図」1872 (『博覧都市江戸東京』展図録)
- 2) 湯島聖堂博覧会、横山松三郎撮影、1872 (『博覧都市江戸東京』展図録)
- 3) 湯島聖堂の現状
- 4) 湯島聖堂博覧会の関係者、横山松三郎撮影、1872 (『博覧都市江戸東京』展図録)
- 5) 内田正雄書簡 (『新旧時代』1925.8)
- 6) 大学南校物産会 (石黒敬章編『明治・大正・昭和東京写真大集成』)
- 7) ゴウの頭骨 (横浜市立野毛山動物園で飼育されていた浜子)
- 8) 国輝「古今珍物集覧」1872 (『博覧都市江戸東京』展図録)
- 9) 昇齋一景「博覧会諸人群集之図」1872 (『博覧都市江戸東京』展図録)
- 10) 湯島聖堂博覧会会場写真、横山松三郎撮影、1872 (『博覧都市江戸東京』展図録)
- 11) 名古屋城金鯱の展示、横山松三郎撮影、1872 (『博覧都市江戸東京』展図録)
- 12) 昇齋一景「元昌平坂博覧会」1872 (『博覧都市江戸東京』展図録)
- 13) 河鍋暁斎「今昔珍物集」1872 (『博覧都市江戸東京』展図録)
- 14) 湯島聖堂の孔子像 (『日本美術研究』別冊、筑波大学日本美術史研究室、2005.3.31)
- 15) 第2回内国勸業博覧会動物館 (『東京国立博物館所蔵明治期古写真』国書刊行会)
- 16) 徳川家一之御霊屋勅額門 (社団法人霞会館編『鹿鳴館秘蔵写真帖』)

#### 国家の祝祭

・ 氏子から国民へ

・ 対外戦争とナショナリズム

1889.2.11 憲法発布祝賀会

1894.3.9 大婚25年祝典

1895.5.30	日清戦役凱旋祝賀会	
1897.1.11	英照皇太后御大葬	
1898.4.10	奠都 30 年祝典	
1900.5.10	東宮御慶事	
1905.10/12	日露戦役凱旋軍隊歓迎会	
1905.10.12	英国艦隊歓迎会	
1908.10.18	米国艦隊歓迎会	
1910.8.30	日韓合邦祝賀	
1911.4.3	日本橋開通式	
1912.7.19	新大橋開通式	『日本橋区史』第 17 章「諸式典」より

- 1) 芳員「神田祭出しづくし」1859 (『祭礼・山車・風流』展図録)
- 2) 三代広重「天盃頂戴為御礼諸民欣樂東京府四谷之風景」1868 (『明治天皇と御巡幸』展図録、栃木県立博物館)
- 3) 「上野公園地楽車印練込賑ひの図」1879 (『博覧都市江戸東京』展図録)
- 4) 国利「憲法御発布式祝祭之景況先ニ貳重橋御成行列之図」1889 (『明治天皇と御巡幸』展図録)
- 5) 「東京神田神社祭礼之図」1876 (『祭礼・山車・風流』展図録)
- 6) 神田祭を写した最古の写真 (『神田明神史考』神田明神史考刊行会)
- 7) 佐柄木町山車 (『神田明神史考』)
- 8) 通新石町山車 (『神田明神史考』)
- 9) 高橋源吉「大婚二十五年奉祝景況図」宮内庁三の丸尚蔵館蔵、1894 (『御慶事のかたち』展図録、宮内庁三の丸尚蔵館)
- 10) 島田大祭の現状
- 11) 高力猿猴庵『尾張年中行事絵抄』東洋文庫蔵 (『大にぎわい城下町名古屋』展図録、名古屋市博物館)
- 12) 『風俗画報 征清図会』第 9 編 (1895.5.25)
- 13) 日比谷凱旋門、1895
- 14) 上野凱旋門、1905
- 15) 日本橋凱旋門、1905
- 16) 三越凱旋門、1905
- 17) 広重「する賀てふ」(原信田実『謎解き広重「江戸百」』集英社新書)
- 18) 「万世橋畔神田区山車陳列之図」『風俗画報』331 号、1905